

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアブレッジ下田(2ユニット合同)		
所在地	静岡県下田市五丁目6番58号		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kami=true&JigyosyoCd=2270200161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、職員同士が認知症ケアに対し、同じ方向で前向きに、新しい知識を取り入れながら、利用者一人ひとりに合った対応をしています。また、ご家族様との関係を密にし、信頼関係を大切にしています。そして、利用者一人ひとりと共に笑い、共に支えあいながら、笑顔のある生活ができるよう努め、日頃から、外食支援や自然とのふれあいを求め外出する機会を多く設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山に囲まれた建物からは青い海原が見渡せ、自然豊かな環境の中に事業所はあります。玄関では愛らしいウサギの出迎えがあり、入口すぐのオープンスペースでは笑い声が響いていて、利用者の発語や表情も豊かです。観光都市という地域性から様々な行事があるなか、事業所努力で「今日は黒船祭り」「次はアジサイまつりだね」と頻回なお出かけが叶っていて、ADL維持の一助となっていることが覗えます。ハード面の工夫も顕著で、1階と2階での手すりやソファの色を分けて識別を図り、また2階は天窗の採光からも季節の移ろいを感じることができ、明るく爽やかな空間が保たれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ理解を深めている。ユニットごとに理念を掲示し、見やすく意識しながら仕事ができるよう環境を整えている。	各階に掲示された理念は職員が考えて作ったもので、新人研修マニュアルにも反映させ早め早めの指導をおこなっています。また胸に刻めるよう「その人そのもの」とされる名刺にも刷り込まれ、浸透に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生のボランティア体験も受け入れています。また地域の防災訓練に参加し地域住民との交流を深めている。	中学生の福祉体験では5～6名のグループを受入れるほか職場体験をはじめとする来訪者を歓迎しています。10月におこなわれた事業所まつりでは既に退去された利用者家族も加わり、コーラスなどに興じてくださったとのエピソードからは事業所の開放的かつ親愛ある姿勢が覗えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時や問い合わせ時に認知症に対してどのような支援を行っているのかを説明し、認知症に関する相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や課題は、手紙で家族に報告し、職員はユニット会議で話し合いをもっている。	市役所職員や、地域・利用者代表が集うなか、事業所の取組みや経営状況、人材確保について細かく説明していることを書面で確認しました。また、家族には報告書を届け、内容を分かち合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当の方に参加して頂き情報の交換を行っている。	行政や地域包括支援センターの職員と介護情報のやり取りをおこない、居室の空き状況についても適切な助言を得ています。またわからないことがあると法人代表が市役所に直接出向くという、密な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は開錠し、立地条件上夜間のみ施錠している。身体拘束の研修等にも、出来る限り参加し職員間で情報を共有し理解を深めている。身体拘束はしてない。	高台にあり、また裏手は崖との環境から家族も施錠を切望していて、合意を以て運用しています。身体拘束に係る研修へ参加の職員がとりまとめたものは会議を通じて周知させ、その仕組みも定着しています。	「なぜ施錠する必要があるか」を考え、拘束排除への意識が風化しないよう、定期で協議することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する理解を深めるよう、職員教育をおこない、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている。権利擁護の研修等にも参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をていねいに説明し、利用者や家族などの理解と納得を得たうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族に利用者の様子を書いた手紙を出し、面会時や電話でも普段の様子を家族に伝えている。運営推進会議での内容も同封している。	玄関の意見箱は開所以来1件の実績があまりありませんが、主には家族会議や面会時を“聴ける、貴重な機会とし、また面会が多いこともコミュニケーションが豊かになることに功奏しています。家族アンケートでは毎月の事業所便りで「状況がよくわかる」との記述が複数あり、満足を感じました	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員との関係を密にし、意見を聞くよう心がけている。必要に応じて、代表者にも報告や相談をしている。	ユニット会議を月に1回行っています。管理者が現場に入っているので職員と都度話し、目標達成計画や疑問点を会議の場に持ち込み、食事会では普段口にはできないことも言い合え、相互理解につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年1回職員一人ひとりから意見を聞く場を設け、職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務などの調整をおこない、参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や連絡会などに参加し、他の同業者との交流を深め、意見を交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を深めるために、事前に家族や本人から情報収集し、不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の立場にたって、しっかり話を聞きながら情報収集し、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に事業者のサービス内容を詳しく伝え本人や家族と話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を大切に考え日常生活を共に過ごす中で学び支えあう関係作りを行っている。利用者に寄り添うように接しておりスタッフもまた支えられる立場にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の状況を家族に報告し、支援方法について相談し意見を伺いながら支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物などを揃え利用者が落ち着くを提供し、外出支援で馴染みの場所を訪問している	戸外アクティビティに力を入れており、自宅を訪ねて回顧の気持ちに寄り添うこともあります。お盆や正月に一時帰宅する利用者は無論のこと、事業所に泊まり込み一緒に過ごす家族もいます。携帯電話を持つ人には事業所の固定電話同様、取次ぎを手伝っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りながら皆で楽しく過ごす時間や場面が作れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もどのように過ごされているか病院や施設などへ面会に行っている、また、退居後もボランティア活動で家族が訪問してくれます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するように努めている。日常生活や活動の中から利用者の発言や行動からも嗜好や関心事を把握し、その共有に努めるようにしている。	アセスメントを把握のうえ、職員には「なるべく表情で読み取れるように」と繰り返し伝え、わかったことは記録に残して共有しています。また体調がすぐれないときは速やかに家族へ連絡し、在宅ではどうだったかも聞いて参考としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューとアセスメントにおいて本人や家族から情報を収集し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を把握し、申し送りやケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点を話し合い、利用者の状況に応じた個別対応をすることで改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し、モニタリングは3ヶ月に1回、再アセスメントは6か月に1回実施し、計画書の見直しをおこなっている。サービス担当者会議も必要に応じておこなっている。	介護計画は居室担当者と計画作成担当者として作成されています。6ヶ月ごとケアプランの見直しを行い、入院や状態変化には都度作り直しています。独自のアセスメントシートは詳細に記入できるように図られ、プランへの取組み意欲を具体例として受け留めることができました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用して全職員が情報を共有できるような体制を作り、問題点があれば話し合いを設け、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者は二つのホームを運営しているため、利用者の状態に応じて柔軟な対応を取り、出来る限り必要とされる支援は連携しておこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れていた地域にも出かけるようにし、地域性を考えた支援を提供し、防災訓練に参加するなど、必要な地域資源との連携を持ち対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族や本人に確認した上でかかりつけ医と連絡を取り対応できるようにしている。	月に1回の訪問診療と、週1回看護師による健康管理が慣行されています。協力医療機関が内科医ということもあり、そのほかの専門科は以前のかかりつけ医を継続しています。受診同行は家族にお願いしていますが、職員も送迎や付き添いをおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	7月より看護師が勤め始めたので、看護と連携しながら、利用者の医療情報を共有し、適切な対応が出来るように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は面会に行き、医療担当者や家族から状態を伺い、速やかに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要な場合は取り組みが難しいため、契約時に出来る事出来ないことを説明し理解してもらっている。	協力医が変更となったことも重なり、看取り体制が整っていません。そのため、家族に想いはあるものの、契約時に現状を説明し断念してもらう形となっています。医療が必要になった場合は療養型病院など移設について支援し、できるだけ家族負担を抑えています。	今後は協力医や看護師との連携を進め、馴染みの場所で最期まで暮らせるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るようマニュアルを作成している。急変や事故発生時に備えて消防署などに出向き応用手当などの講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、一般防災訓練を行い、職員全員が避難方法などを身につけられるよう対策を取っている、地域の防災訓練にも参加し一緒に炊き出しなどを行っている。	地域で2回、事業所でも2回と総計年4回の訓練をおこない、その内消防署職員が加わった避難誘導や消火訓練が1回あります。また避難経路を各階に貼り付け、近隣に居住の役員や職員が駆けつける態勢をつくり、工夫に取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の時間を大切にできるよう居室の扉を閉めるようにしています。利用者に対して年長者として心得た上で特に言葉使いに注意を払っている。	言動や立居振舞を省みることができる接遇の学習も積み、利用者のプライバシーや個々を尊重するように例えば居室の扉は閉めることを旨としています。1階は全て女性なので同性介助は不可能ですが、利用者から「同性介助にして欲しい」との声は今のところありません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では思いや希望を尊重し、本人の意思を大切にしている。また自己決定が難しい人にはその方の立場に立った考えや働きをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での支援ではなく、本人の生活リズムを把握し、寄り添ったケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回散髪を行い、希望に応じて美容院に行ったり、髪染めを行っている、また、お化粧品を個人で居室に置き、自由におしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、食事の準備、盛り付けなどに参加してもらっている。また、季節感のあるメニュー作りを推進している。	10時のおやつが終わる頃には自然と利用者と職員が食事の支度を始めます。一緒にメニューを吟味したり畑の収穫物を活かすこともあるため各階で食卓に並ぶものが異なったり、また買い物外出を誘い合い、好き嫌いには代替野菜を供え、本人本位が成されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった摂取方法を考え食事を提供している居る、利用者の状態に合わせ食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアをおこなっている、また、義歯使用の人には定期的に入れ歯洗浄剤を使用している。2ヶ月に1回歯科の訪問診療がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄方法を考えスムーズに排泄できるようにしている。排泄表を作成することにより排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄できるように促している。	個々の排泄傾向を捉えたうえで居室にポータブルトイレを置いたり、トイレに近い部屋とするなどして、できる限りトイレでの排泄ができるように検討されています。最近では放尿も格段に減り、日中はオムツも回避して夜間のみハビリパンツを利用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、乳製品の摂取や軽い運動を促し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には必ず声掛けをし本人の意思を確認している、入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんで頂いている。	ADLが多少下がっても入浴できるようにとした浴槽が配され、湯も人毎に入れ替えていて、安全清潔の入浴がおこなわれています。基本は2日に1回ですが毎日入る人、またシャンプーも慣れた好みのものを使用する人がいて自由です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考え、いつでもフローアーや居室で休めるような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは看護師や管理者、リーダーから申し送りがあり、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を把握し、得意とすることを見つけ出来る役割をお願いしている。レクリエーションには個々の趣味や興味があることを取り入れながら、楽しみのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じた柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるだけでなく、交流を深めるためにユニット合同で外出している。	日用品購入や近くの飲食店での食事、ドライブと頻回にでかけており、家族からも「嬉しい」との声が寄せられています。観光地域で行事がたくさんあるためお出かけに困ることなく、四季を感じ地元の皆さんと触れ合うことが叶っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、一緒に買い物に行くなど使える場を提供している。個人で管理出来ない場合は家族の承諾の上、小遣金として管理し、欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に制限なく電話をしている。電話をしたい方は自由に連絡が出来るよう取り次ぎをしている。手紙やはがきが送られて来たときは本人に渡し、返信を出すときはあて名の確認や投函など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには家族から頂いた生花を飾り、季節を感じて頂く。共有空間などには温かみを感じられるよう自然灯を使用し、ソファを多く設置し、ゆったりと時間が流れるようくつろぎの空間を作っている。	共用スペースは階ごとに色を変えて独自性を保ちつつ塵一つない空間をつくっていて、清潔さを感じます。壁に取り付けられたコルクボードには季節ごとに制作されるレクリエーション作品がかけられ、創造への喜びが伝わってくるようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内の家具の配置は、利用者に危険がないよう十分配慮し、身体機能に合わせた物を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が暮らしやすいように使い慣れた家具を持ち込んでもらい、家族に協力してもらいながら好みの品なども自由に配置してもらっている。	予め備え付けられたベッドや椅子以外は持参した筆筒や小物が見られ、居室には個々の気持ちが現れています。習慣とした布団を続けたい人にはベッドを外し本人が望むレイアウトに替えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はユニバーサルデザインを取り入れ安全で自立できる生活の実現に取り組んでいる。利用者の状態に応じてリフォームなどおこない、生活しやすい環境を整えている。		